

2021 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073300313		
法人名	株式会社太平洋		
事業所名	グループホームファミリー	ユニット名	2
所在地	宗像市平井1丁目19番1号		
自己評価作成日	令和3年11月15日	評価結果市町村受理日	2021年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2021年12月7日	評価確定日	2021年1月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

昨年より新体制となり、心身共に重度化する入居者様の様々なニーズに対応するため、職員のレベルアップと意識改革を目指しています。終の棲家として、家庭的な雰囲気の中での看取りも行います。昨年からは新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から行事の中止が相次ぎ、地域との関りが困難でしたが、運営理念にも掲げておりますように、地域密着型事業所として、これからも地域との絆を大切にしていきたいと考えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、申し送り時に運営理念の唱和を行っています。多忙な業務の中でも、全職員が理念を意識しながら行動できることを目指します。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、会合にも可能な限り施設長が出席します。また、運営推進会議に2名の地域役員さんに出席して頂き、情報交換しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年中行事やイベントの中止が多く、地域の皆様との交流ができませんでしたが、運営推進会議では地域の役員さんに認知症のお話をすることができました。これからも続けたいと考えます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の年齢や介護度を報告すると驚かれますが、高齢化と重度化に応じたサービスの提供を目指すことを報告し、施設の存在を「安心できるもの」「頼りになるもの」として地域の皆様に認識して頂きたいです。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出のために市役所を訪問した際や電話で、事業所の実情を報告し、相談させて頂いています。質問に対しても丁寧な助言を頂きます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる行為は理解しています。勉強会で身体拘束と虐待について学ぶと共に、スピーチロックを含めた身体拘束ゼロを目指します。		

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で虐待について学びます。「もし私が利用者だったら」という立場の置き換えをすることで、虐待にあたる行為を行わないよう、また、職員同士で注意し合えるよう環境を整えたいと思います。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価	
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と計画作成担当は制度について研修を受けた経験があります。その他の職員にも機会があれば学んでもらいたいと思います。制度利用についてはご家族とも十分に協議します。	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には統括マネジャーと施設長が当たり、説明に多くの時間を割いてご家族に十分理解して頂けるよう努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族代表の方よりご意見を頂く機会を設けております。また、面会や電話で、入居者様の日頃の様子を報告した際に、ご家族の意向を伺うことがあります。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は月1回のミーティングで検討します。ミーティングには毎回、統括マネジャーが出席し、助言を行います。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	統括マネジャーが日頃から管理者からの報告を受け、相談にのっています。ミーティングや勉強会にも参加して助言を行うと共に、必要ならば個人面談を行うこともあります。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢や性別による制限は特にありません。介護職員は過去に様々な経歴を持って入職してきます。介護以外の得意分野や専門性があれば、それを介護業務の中に活かせるようにしています。		

14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	学習会だけではなく、日頃の業務中でも、入居者様の尊厳を守る教育（その場での注意、面談等）を行っています。		
----	------	---	--	--	--

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	統括マネジャーは職員ひとりひとりの能力や特徴をほぼ把握しています。管理者は統括マネジャーと相談の上、職員の外部の技能向上研修等への参加を促しています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で昨年から中止になっていますが、統括マネジャーと管理者が宗像市の地域密着型事業所の会議等で同業者と交流を持っています。他の事業所を訪問したり電話で話すことで、新たな気づきを得ることがあります。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初にご家族や入居前の担当ケアマネジャーからの情報が頼りですが、入居後、少しずつ本人のことが分かり、接し方が分かるにつれ、安心してケアを任せて頂けるようになっていきます。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅生活の中でご家族が困ったご本人の状態で、不安等を聞き取り、共感の態度を示すことにご家族に安心して頂きます。また、面会時に、日頃の状況を大変なことも含めて、柔らかい言葉でお伝えするようにしています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の困り事を聞き取ることは難しいが、ご家族の困り事や心配事を知ることにより、それをご本人に置き換えて必要な支援を考えるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや野菜の下処理等の作業に参加して頂くことによって、役割を持つ喜び、仕事ができる喜び、他の皆さんと関わる楽しみを感じて頂きたいと思っております。		

21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人との時間（電話、面会）を持って頂きたいとご家族にお願いしています。職員ではご家族の代わりになれないことを伝え、短時間でも面会を受け入れています。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価	
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との面会は難しいですが、ご家族が持参された年賀状や写真等で昔馴染みの人や場所を思い出すことはできています。ご家族からその方へ現状を伝えて下さっています。		次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	どうしても他者との関係構築が苦手な入居者様がいらっしゃいます。会話に参加しやすい話題を職員が提供したり、作業にお誘いしたりします。しかし、おひとりの時間も大切にしていきたいと思っています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方のご家族から保険等の手続きのために連絡を頂くことがあります。できるだけ対応するように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向の確認は本当に難しいと思います。会話しても行動を見ても分からないことが多いです。「もし私をご本人だったら」という立場の置き換えを常にしよう努めています。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話、ご家族や入居前の担当ケアマネジャーさんからの情報により、これまでの生活を把握するようにしています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実際に目にする入居者様の様子や、介護記録、職員からの情報（申し送り）により入居者様の現状を把握します。		

28	(13)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当も入居者様の様子を確認していますが、分からないことは介護職や看護職、ご家族からも情報を得て、現状に即した計画を作成するよう心がけています。</p>		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価	
29		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の記録には、体調の変化や気になった会話、体操やレクでの様子等、介護計画に沿った内容が書かれています。計画に沿わないことも、日頃と違うことがあれば極力記録するよう心がけています。</p>		次のステップに向けて期待したい内容
30		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>心身の状態が重度化した入居者様に対し、管理者を含む4名の看護職が主治医との連携を密にし医療ニーズに対応しています。また、家事や趣味への関心が薄れないよう、作業やレクで能力を維持できるよう支援します。</p>		
31		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ禍で実施は難しかったのですが、地域のイベントや馴染みの場所へお連れすることで、生きている喜び、生きてきた喜び等を感じ、心身共に元気に過ごして頂けるよう支援したいと考えます。</p>		
32	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前に協力病院の説明を行い、ご家族の了承を得て、入居前の主治医と協力病院との間で情報交換がなされます。協力病院が標榜していない診療科への受診は、ご家族の情報により以前のかかりつけ医と連携します。</p>		
33		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>ケアの中で発見した内出血や傷、発熱等の体調の変化は、速やかに看護職と管理者に報告しています。報告を受けた看護職と管理者が受診の要否について検討し、必要ならば受診介助を行います。</p>		
34		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院から主治医や病院の看護部長から情報を頂き、ご本人の状態と退院の時期について相談する機会を持つようにしています。</p>		

35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期が近づいている状況を早く判断し、協力病院の診察を受け、ご家族へ説明します。説明は誠意を持って行い、穏やかな対応を心がけています。		
自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき職員に教育を行います。急変時や事故発生時の対応については、管理者より介護職員に対して説明と確認を行います。介護職員では判断できない体調の変化があれば、管理者がオンコールで対応します。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練に入居者様も参加して頂き、認知症の方の避難誘導の難しさを職員が認識できる機会としています。運営推進会議で災害時の協力をお願いすると共に、福祉避難所であることをお知らせしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	正直なところ、適切な対応ができていない職員も複数おります。今後も個人的な面談と全体的な教育を続け、全ての入居者様の尊厳が守られる施設にしたいと思います。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ほとんど発語が見られない入居者様にもきちんと声をかけ、お返事を待つようにしています。また、言葉としての返答がなくても、表情や仕草でその時のお気持ちを察してケアするよう心がけています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お食事とお風呂以外は決まり事を設けておりません。ただ、ご自身で行動を決められない方については、職員が定時の排泄介助を行ったり、レクリエーションにお誘いしたりしています。		

41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装に拘りをお持ちの方には、できるだけ好みに沿うようにしていますが、季節や気温にそぐわない場合もありますので説明し、調節をお願いします。理解して頂けない場合は、インナーを調節する等、対応しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「手伝わせて」と仰る入居者様には、職員付き添いの上、もやしひげ取り等をして頂きます。テーブル拭きもご自分の前だけでもお願いすると喜ばれます。献立に昔ながらの料理を取り入れ、懐かしんで頂いています。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量は、排泄と一緒に確認できる表を使用し、不足があればすぐ分かるようになっていきます。健康状態を考慮しつつ、ふりかけや梅干し等の食品も個人的に希望があれば召し上がって頂きます。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が付き添って口腔ケアを行います。月2回、歯科の訪問診療で専門的口腔ケアが行われ、助言を頂いて口腔ケアの知識と技術を向上させると共に、入居者様の口腔環境を清潔の保つ努力をしています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立支援は難しく、現状維持が精一杯です。しかし、分刻みで排泄の訴えをする方でもその都度トイレにお連れし、紙パンツが汚れないようにはできています。これからも努力は続けたいと思います。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時の対応は主治医から指示を頂いており、必要時に看護職が処置を行います。できるだけ自然排便を促すために、食事に麦ごはんを取り入れたり、野菜を多めに食べて頂くように献立を考えています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に沿った対応はできていません。現在できているのは羞恥心への配慮のみです。曜日と時間は職員が決めています。もっと入浴を楽しんで頂ける環境にならなければ、と思っています。		

48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、ほとんどの方はリビングで過ごしておられます。体調不良や眠気で「少し休みたい」と仰る方はベッドで休んで頂きます。夕食後から就寝までは、食堂でテレビを観たり、会話を楽しむ方もいらっしゃいます。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護職員が管理します。全ての介護職員が薬について理解しているとは言えませんが、薬の変更があった入居者様の様子観察は看護職員からの申し送りを受けて行います。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	要介護1の方が増えましたが、認知症は中、高度で、役割を持って頂くことがかなり難しい状況です。壁飾りの共同制作、歌、体を使うゲーム等を楽しみと気分転換の機会にしています。	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿った外出支援はできていません。何も心配せずに、初詣やお花見で施設から外にお連れできる日が早く来ることを切に願います。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しいため施設内での現金の所持はお断りしています。初詣等の外出で預り金から小銭をお渡しし、お賽銭箱に入れて頂く程度のことはしていますが、お金の価値の理解が難しい方がおられます。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	隔日で息子さんと電話で会話を楽しむ方がいらっしゃいます。携帯の操作が難しいため、かかってきた電話に職員が出て、ご本人にお渡しします。手紙も希望があればお手伝いしたいと思います。		

54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に室温には注意し、入居者様の様子を見て衣服や掛物で調節しています。職員の声や動作にも気配りが必要ですが不十分です。季節感は壁飾りで感じて頂いています。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクリエーションや作業に興味のない入居者様は無理にお誘いせず、テレビや新聞を見て頂いています。居眠りをする方もいらっしゃいます。お喋りが弾む配席の工夫をしています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、持ち込むものについてご家族に説明を行います。ご家族との写真を壁に飾ったり、使い慣れた寝具を使って頂くことで自室である認識を促しています。		
自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段に昇降機がありますが、「歩きたい」と仰る入居者様には、職員が付き添い、最小限の介助で歩いて頂きます。トイレや食堂を分かりやすく表示し、入居者様が認識できる工夫をしています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				